



皆野中だより

10月号



2年生宿泊体験学習

令和7年10月1日発行 第7号

皆野町立皆野中学校 TEL 62-0432 FAX 62-0076

【校 訓】剛き意志 深き愛 自由の胸 純なるこころ

【学校教育目標】人間力で自立する生徒の育成

【目指す学校像】心理的安全性で Well-being を実現する学校

生徒数 1年61名 2年76名 3年74名 合計211名

千里の馬は常にあれども伯楽は常にはあらず

校長 板倉邦弘

夏季休業中に生徒が取り組んだ自由研究「夏休み作品展」を9月10日まで公開しました。多くの生徒がSDGsと関連させ、様々なテーマで研究や創作に取り組んだ作品が並びました。生徒の皆さん、そしてご支援・ご助力いただいた保護者の皆様、大変ご苦労様でした。作品を拝見しながら、私は自分が小学生か中学生の時に、今で言う「ハンディ・ファン」を作ったことを思い出しました。角材で作った取っ手の中に単三乾電池を2本入れ、その上に小型のマブチモーターをつけ、直径12cmほどのプラスチック製三枚羽根プロペラを付けたものでした。ハンディ・ファンは、今やトレンドのアイテムですが、当時(45年以上前)に小型扇風機を持ち歩くなどという発想は私にしかなかったのでしょうか。全くウケず、何の賞ももらえませんでした。もし当時、40年後にこんな酷暑の時代が来ると分かっている人がいたら、発明創意工夫展等に出され、どこかのメーカーにアイデアが採用されていたのではないだろうか、などと考えてしまいました。また、生徒の皆さんも様々な発想で取り組んでくれましたが、作品を観る側にも柔軟な受け止めができる先見性や考え方が必要であることを改めて感じた次第です。

そこで思い出したのが、「千里の馬」という言葉です。正しくは「千里の馬は常にあれども、伯楽は常にはあらず」ということわざです。一日に千里を駆ける名馬がいても、それを見いだす伯楽のような者がいなければ何にもならない、というような意味です。もし45年以上前にハンディ・ファンを作った私を見いだせる人がいたら、もしかしたら私の人生も変わっていたのかな、などと考えてしまったのはきっと残暑のせいでしょう。せめてハンディ・ファンを使う時、「これを発明したのは皆中の校長らしい」と思っただけならうれしいです。

生徒の皆さんの中にも様々な分野の「千里の馬」がきっといるはずですよ。また、一人一人が様々な長所を持っています。私たち教職員は生徒一人一人の長所に気づき、それを伸ばせる「伯楽」でありたいものです。一方、私の大好きなミュージシャンの浜田省吾さんは、「千里の馬」の意味を「(自分のように)どんなに足の遅い駄馬(だば)でも、途中であきらめずに千里を走ったら『千里の馬(優れた馬)』になれるのだ」と勘違いして、その言葉に励まされ、長い間支えられてきたのだそうです。私はこの「誰でもあきらめずに最後までやり遂げたら『千里の馬』になれる」という勘違いの解釈がとても好きです。皆中生にも、何事も最後まであきらめずに取り組んで「千里の馬」になって欲しいと思います。

ただし、くれぐれも「千里の馬」の意味は、正しい方の意味を覚えてください。